

平成 23 年度 鹿児島市学校教育研究大会 研究実践経過 中間報告

基本的生活習慣の育成

鹿児島市立桜丘中学校

1, 生徒指針～めざす生徒像～

考える生徒
心豊かな生徒
たくましい生徒

2, 生徒指導の目標

- ①一人ひとりの生徒理解に努め,個性の伸長をを図る。
- ②自ら考え,正しく判断し,進んで行動できる生徒を育てる。
- ③自らを律し,思いやる心や感動する心を持った豊かな生徒を育てる。
- ④心身ともに健全で,強い意志を持って自己鍛錬に努める生徒を育てる。

3, 生徒の実態

○学校行事等に積極的に参加している。
△コミュニケーション能力に欠ける。

教師や保護者の願い

- ・基本的生活習慣の確立
- ・たくましさ, 忍耐力
- ・優しさ, 思いやり
- ・勤労の精神, 奉仕の心
- ・学力向上

4, 基本的生活習慣を身につけるための取り組み (実践事項)

- ①身なり指導の徹底 標準服の着用,ネーム・組章・校章, 髪型など
- ②礼儀作法の徹底 あいさつの習慣化, 生活環境部によるあいさつ運動
- ③作業指導の徹底 「無言作業」教員の作業分担
- ④時間へのけじめ指導 ノーチャイム着席
- ⑤共通理解・認識の徹底

週 1 回の生徒指導部会→ 生活目標の設定
(各学年生徒指導部) 生徒指導上の問題点検討
各学年の情報交換
生活目標の反省と問題点の検討

学期 1 回実施生徒支援委員会→ 現状の把握と具体策の検討
(全職員) 不登校生に対する対応の検討
関係機関との連携

考える生徒 心豊かな生徒 たくましい生徒

基本学力向上に向けての取り組み

鹿児島市立桜丘中学校

1 聴く力をつける指導法の研究

これまで本校では、「聴く力～」以前（4，5年まで）は「基礎学力向上に関する研修」というテーマで、各教科の指導法をまとめたり・・・と抽象的な内容で進めてきました。

3年前に基礎学力向上に向けての取り組みを具体化・焦点化する意味も含めて、「判断や主体性を身につけるためには、まずは聞く態度を身につけさせることが最優先」と仮説を立て、「聴く力（聞きトレ）」に取り組みました。

2 本校の実態について（昨年度標準学力検査の結果）4月実施

領域	全国比 100	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
話すこと聞くこと	1年			103
話すこと聞くこと	2年		102	109
話すこと聞くこと	3年	104	105	106

3 具体的取り組みについて

（1）学習の心得

- 1 始業1分前に席に着き、学習用具の準備をして静かに待ちます。
- 2 先生の来室同時に「起立」または「姿勢」の号令で正しい姿勢をとり「礼」の号令で全員が「お願いします」といいます。
- 3 先生に指示されたときは、「はい」の返事で立ちます。
- 4 発表するときは、大きな声ではっきりいいます。
- 5 質疑応答のときは、学級全員に聞こえる大きな声で、はっきり言います。
- 6 授業に遅れたときは、その理由を先生に届けます。
- 7 授業が終わったら、「起立」または「姿勢」の号令で正しい姿勢をとり、「礼」の号令で全員が「ありがとうございました」といいます。

（2）少人数，TT(ティームティーチング)

英語科において、4月から学年により取り入れている。指導形態や内容については、相互に意見交換を図りながら基礎基本の定着をめざしている。数学科においても、6月から少人数授業を取り入れている。

（3）朝の読書活動

本校では、8:05~8:25 までを朝読書の時間として取り組んでいる。1日の学習に落ち着いて取り組めるよう行っているが、読書への意欲が高まることで学習意欲が高まることも期待される。

（4）その他

学年が進むにつれて、学力差、学習の意欲の差が大きくなっていく。進路指導とも関連させて可能な限り目標を持たせるようにしている。学習習慣の定着の徹底が必要と考えられる。

平成23年度 小中連携研修会 資料

鹿児島市立桜丘中学校

分科会 確かな学力の育成「基礎学力定着・学力向上」に関する実践発表資料

桜丘中学校平成22年度 「校内研修のまとめ」から

1 研究主題

「聴く力」をつける指導法の研究
～自ら判断し、行動にうつすことのできる生徒の育成について～

2 主題設定の理由

本年度の研修は、3年間継続研修ということで「聴く力」についての研究を実践する。
昨年度（21年度）は、以下の生徒の実態にもとづいて取組自体の検討から始めた。

【生徒の実態】

- ①今説明したことを実行させようとする、再び内容を聞き返す生徒が多い。
- ②要点を押さえて学習ノートをとることを苦手とする生徒が多い。
- ③集会の話しを静かに聞いているようであるが、話しの中身が理解できていない生徒がいる。
2年間のトレーニング実施を受けて本年度はさらにそれを深化し、幅広い分野からの出題という方法を取り、より広く興味を持って取り組めるよう3年目がスタートした。

3 具体的な取り組み

(1) 小学校との連携

小中連携研修会を活用し、桜丘西小学校と桜丘東小学校にも中学校での生徒の実態を伝え、「聴く力」への取り組みをしていきたい、という今年度の主題について説明を行った。

この結果、小学校でも「聴く」ということへの取り組みを各学年に即した形で考えることとなった。

(2) 校内研修としての取り組み

まずはトレーニング自体に「慣れる」という1年目の実施を受けて、2年目は各教科に依頼してそれぞれの教科内容をもとに考えた出題をした。いよいよ最終年度ということで、今年度は、身につけた「聴く力」をどのように活かすかという事に重点を置いた活動にしていきたい。

H22年度 桜丘中学校 校内研修計画

1 校内研修の目的と組織

(1) 校内研修の目的

教職員としての専門性と資質を高め、学校教育目標の具現化を図る。

(2) 校内研修の体系と研究組織

■体系（省略）

■組織（テーマ研修の部分のみ掲載）

テーマ研修	①全職員が参加し、桜丘中学校の課題を話し合い、それに沿ったテーマを設定する。	全体研修会
	②中間報告・・・生徒の現状と実態の把握。学年の取り組み、教科の取り組みの中間報告。	全体研修会 各学年部会・各教科部会
	③各学年・各教科の中間報告をホームページへ掲載。	教育方法係
	④年間報告・・・学年の取り組み、教科の取り組みの結果報告と来年度への課題のまとめ。	全体研修会 各学年部会・各教科部会
	⑤各学年・各教科の結果報告をホームページへ掲載。	教育方法係

(3)平成22年度 桜丘中学校 校内研修 年間計画

月	日	曜	時間	研修の種類	内 容	係
4	8	木	6校時	一般研修	【全体】H22年度 校内研修年間計画 確認	研修係
				テーマ研修	【前体】 // テーマ研修計画 確認	研修係
	23	金	6校時	テーマ研修	【全体】第1回聴き取りトレーニング	研修係
5	10	月	6校時	一般研修	【全体】AEDの使用, 救急救命に関する研修	保健主任
	14	金	6校時	テーマ研修	【全体】第2回聴き取りトレーニング	研修係
				一般研修	【全体】配慮を要する生徒 ～生徒指導上の共通理解, 健康面も含む～	生徒指導主任
28	金	6校時	小中連携研修	【全体】小中連携研修会にむけての準備・確認 【各教科部会】各教科の勉強の仕方(各教科主任) 【係会】学習の仕方(学業指導係) 生徒指導(生徒指導主任)	研修係	
6	7	月	帰学活	テーマ研修	【全体】第3回聴き取りトレーニング(学年対応)	研修係
	14	月	6校時	一般研修	【全体】小中連携研修会最終確認 【各教科部会】標準学力検査分析の資料作成	各教科部会
	21	月	6校時	一般研修	【全体】標準学力検査結果分析	
	23	水	5校時 ～	一般研修	【全体】小中連携研修会 本校当番	各教科部会
7	5	月	6校時	テーマ研修	【全体】第4回聴き取りトレーニング	研修係
8	2	月		一般研修	【全体】情報教育・視聴覚教育に関する研修	教育方法係
	20	金		一般研修	【全体】生徒指導に関する研修「講師派遣事業」	生徒指導係
9	6	月	6校時	一般研修	【全体】2学期以降配慮を要する生徒・不登校生に 対する対策	生徒指導係
	13	月	6校時	テーマ研修	【全体】第5回聴き取りトレーニング	研修係
10	4	月	6校時	テーマ研修	【全体】第6回聴き取りトレーニング	研修係
11	8	月	6校時	テーマ研修	【全体】第7回聴き取りトレーニング	研修係
				一般研修	【全体】人権同和教育に関する研修	人権同和教育
	19	金	6校時	一般研修	【全体】学級経営Q&A	研修係
12	13	月	6校時	テーマ研修	【全体】第8回聴き取りトレーニング	研修係
				一般研修	【全体】教育課程作成に関する取り組みⅡ	教務係
1	24	月	6校時	テーマ研修	【全体】第9回聴き取りトレーニング	研修係
				一般研修	【各係】教育課程作成に関する取り組みⅢ	教務係
	31	月	6校時	一般研修	【全体】職員研修の反省とまとめ ～来年度へ向けての要望, アンケート～	研修係
				テーマ研修	【全体】聴き取りトレーニング結果報告 ホームページ掲載	研修係 教育方法係
2	7	月	6校時	テーマ研修	【全体】第10回聴き取りトレーニング	研修係
3	7	月	6校時	一般研修	【全体】来年度年間計画提案 * アンケート・反省結果	研修係
				22	火	6校時

(4)具体的な取り組みにむけて

「聴く力」をつけるための具体的な取り組みは, 初年度当初 ①どの教科でも生かせること ②どの学年でも取り組めること を条件として話し合い, 「聴きトレ」をスタートさせた。

1年目の反省として多かったのが「まだまだ集中して取り組めていない」, 「トレーニング自体にまだ慣れていない」, 「トレーニングで取り組んだことが授業に生かされていない」などであった。

そこで2年目は, ①継続してトレーニングを実施する。 ②各教科の内容をより多く取り入れて生徒が興味

を持って取り組めるようにする。ということを中心に実践を行うこととした。

2年目の反省としては、①内容が難しくなりすぎる教科も出てきた。②データの集約を行い分析する必要がある。などの意見が出された。

3年目は、前述したとおり、身につけた「聴く力」を学校生活や家庭生活で、どのように活かすか。等の視点に立って研修を深めていきたい。

4 「聴き取りトレーニング」の実施

(1) ルールの決定

- ・全体放送を使って一斉に行う。(原則)
- ・今年度は少なくとも1ヶ月に1度行う。
- ・質問を5つにしぼり、出題する。
- ・終了後、次回のトレーニングを意識させ、目標や反省の時間をあたえる。
- ・記録を残す。
- ・3年間継続して行う。

(2) 実践

次は、平成21年7月6日に行われた「第4回 聴き取りトレーニング」の計画プリントとその放送原稿である。

この回では「社会科」の分野からの出題を行った。

第4回 聴き取りトレーニング(社会科分野)

- 日時 平成21年7月6日(月)6校時
 - 目的 聴く力をつける
 - ・話を集中して聴くことができるようになろう。
 - ・話しの要点をおさえ、記録すべき事項をすばやく記録できるようになろう。
 - ・質問の内容をすばやく理解し、適切な答えをだせるようになろう。
 - ルール 解答用紙は全て集める。
解答用紙を集めるまで、絶対に他の人と話しをしない。答え合わせをしない。
 - 参加者 桜丘中学校生徒 1年生～3年生
 - 流れ ① 放送テスト
*できれば休み時間の間に
総務(又は副総務)は放送の入り具合を確認し、
各学年の研修係へ連絡 → 放送室へ連絡
- ② 各学級で聞き取りトレーニングの用紙配布。目的だけ説明。(担任)
- ③ 聞き取りトレーニング開始(全体の放送で)
- ④ 解答用紙を回収

放送係の生徒(放送室の機器に詳しい者)
のお手伝いを1名お願いします。

[放送原稿]

解答用紙は配られましたか。聴き取りトレーニングの目的はわかったでしょうか。

今日は聞き取りトレーニングの問題を2つ準備しました。やりかたを覚えるためにも、さっそくまず全員でやってみましょう。

解答用紙の「聴きとりトレーニング 例題」と書いてある方を上にして机の上におきなさい。

それでは聴き取りトレーニングの例題をやってみます。メモをとりながら聞きなさい。

【問題文】

世界の国々を面積と人口で比べてみたレポートを発表します。

現在世界には193の国が存在します。その中で世界最大の面積をもつのはロシア連邦で世界の陸地の8分の1をしめています。面積の広い国としてはカナダ、アメリカ合衆国、中国と続きます。日本はおよそ60位です。逆に世界で1番狭いバチカン市国は東京ディズニーランドくらいの広さです。

世界の人口は現在およそ66億人です。アジアには世界の人口の3分の2が集まる一方、オセアニアには3000万人ほどしかいません。日本は人口の多い国に数えられています。中国を筆頭にインド、アメリカ合衆国、インドネシアと続き、日本は世界で10位の人口をもつ国になります。

世界がもし100人の村だったら100人のうち50人が女性、そして50人が男性となります。その中で60人がアジア人、14人がアフリカ人、14人が南北アメリカ人、11人がヨーロッパ人、あとは南太平洋地域の人々です。

また100人のうち20人は栄養が十分ではなく1人は死にそうなほどです。でも15人は太りすぎです。

こうしてみると世界の様子がもっと身近に感じられるのではないのでしょうか。

それでは質問します。

- (1)このレポートは世界の国々の何と何についてのレポートですか。
- (2)東京ディズニーランドとほぼ同じ面積を持つ国はどこですか。
- (3)世界第3位の面積を持つ国はどこですか。
- (4)アジアにはおよそ何億人の人が住んでいますか。
- (5)日本の国を例えると次のどれが最も適当ですか。記号で選びなさい。
 - ア 面積が広くて人口の多い国
 - イ 面積が狭くて人口の多い国
 - ウ 面積が広くて人口の少ない国
 - エ 面積が狭くて人口の少ない国

それでは赤ペンの準備をしてください。準備はいいですか。解答をいいます。

- (1)面積と人口
- (2)バチカン市国
- (3)アメリカ合衆国
- (4)インドネシア
- (5)ア

自己採点は終わりましたか。自己評価の欄には次回の聴き取りトレーニングで気をつけることを書きなさい。書き終わったら回収をお願いします。これで第4回聴き取りトレーニングを終わります。

(3)「聴きトレ」実践に対する実施後の調査

これまでの3年間の実践を踏まえて、全校生徒と教職員を対象にアンケート調査を行った。

- ① 生徒へのアンケート結果 (平成23年2月中旬実施)

問1 トレーニングを受ける前と比べて「聴く力」がついたと思いますか？

	すごくついた	ある程度ついた	あまり変わらない	力はつかなかった
1年	4人	89人	52人	5人
2年	1人	84人	56人	2人
3年	8人	116人	13人	0人

問2 あなたがもっと「聴く力」を伸ばしていくためには、どうしたらよいと思いますか？

- | | |
|-------------------------|------------------|
| ・メモだけに集中しない。 | ・メモをとるスピードを速くする。 |
| ・効率的なメモの取り方をする。 | ・日頃から人の話を聞く。 |
| ・要点をまとめる力をつける。 | ・相手の話を理解しながら聞く。 |
| ・知識を増やす。 | ・集中する力をつける。 |
| ・短い文を読んだら見ないで言う。・音読をする。 | |

問3 各教科の授業で役立ったことがありますか？

- | | |
|--------------------|-----------------|
| ・国語と英語のリスニングに役立つ | ・授業中の理解力が向上した。 |
| ・ノートをとるのが早くなった。 | ・記憶力が上がった。 |
| ・先生の話聞き漏らさなくなった。 | ・聞き返すことが少なくなった。 |
| ・国語の物語を読むのが好きになった。 | ・聞く態度が良くなった。 |

② 教員へのアンケート結果 (平成23年2月初旬実施 回収数 26名分)

問1 「聞きトレ」は、生徒の「聴く力」の習得に効果的だったか？

- ア 大変効果的である (0) イ 効果的である (22) ウ あまり効果的がない (4)
エ 効果がない (0)

問2 (1)で、ア、イに○を付けた方。具体的な内容を教えてください。(複数回答可)

- ア 放送を聞くことに対する集中力がついた。(11)
イ 教師の話をよく聞くようになった。(2)
ウ 国語の聞き取りテストも良くできるようになった。(5)
エ メモの取り方が上手になった。(6)

問3 「聴く力をつける指導法の研究」という視点から、「聞きトレ」以外に実施すればよかったと思われる内容がありますか？(複数回答可)

- ア 教師の「話し方」の力量を高める指導法 (13)
イ 集中して話を聞くことができる雰囲気作りや空間作りの工夫 (16)
ウ 「話す内容」についての研究
エ その他 (アニメーション)

問4 3年間の取り組みについて

- ア 評価できる。(6) イ ある程度評価できる (16) ウ 取り組み不足 (1)

問5 来年度も続けるか？

- ア 継続したい (13) イ 研究主題を変える (11)

(4) 『「聞きトレ」の実践が「基礎学力定着」に繋がったか』ということについてのデータ分析

① 平成22年度 「基礎・基本」定着度調査結果

- 実施期日 平成23年1月13日・14日 □対象学年 1年(現2年)・2年(現3年)
□対象教科 国語・社会・数学・理科・英語

学年・教科			市	県	本校	市対比
			平均通過率(%)			
中1・国語	内 容 領域別	聞き取り	84.7	81.6	88.0	3.3
中2・国語		聞き取り	93.4	92.4	92.7	-0.7
中1・英語		聞くこと	86.7	84.1	86.7	0.0
中2・英語		聞くこと	79.2	76.4	79.3	0.1

② 平成22年度 NRTの結果(国語)

□ 平成20年度入学生(23年3月卒業生)の3年間のデータ

	年度	学年通過率	全国通過率	全国比100
国語 話すこと・聞くこと	20(1年次)	89.4	86.0	104
	21(2年次)	76.0	72.0	105
	22(3年次)	89.9	84.6	106

(5) 成果と課題

- ① 平成20年度以前は、基礎学力向上について、各教科の具体的取り組みと研究授業の実施、そしてそれらをまとめたものをHP上に掲載する。という流れで鹿児島市の教育実践研究に報告されていた。この内容から、一歩踏み込んで、『「聴く力」の育成』を主題とし、他県の実践を参考に「聞き取りトレーニング」を3年間実施してきたこと。また、この実践により、生徒・教員のアンケート結果からも分かるように、研究に対する一定の評価を得られたことは、大きな成果と言える。
- ② 実践自体は、「聞き取りトレーニング」を継続して実施した。ということになるが、これはある意味「リスニング力」「ある文章の内容を聞きとる力・テクニック」の習得に終始してしまったとも捉えることができる。
教科においては、この取り組みのおかげで「聞き取りテスト」の成績が向上したことになるが、もっと幅広く「聴く力」を身につける具体的な取り組みに結びつけたかった。
- ③ 学校生活において、生徒が「教師の」、「友だちの」、「校内放送の」内容をしっかりと聞く。という学校全体の雰囲気作りまで広がりを持たせたかったが、その点においては、立案・実践不足であったといえる。このことは、これから校内研修を推進するうえでの課題となる。